

平成 16 年度 第 1 回 幹事会議事録

(社) 日本地すべり学会

日 時：平成 16 年 6 月 16 日 (水) 13 時～16 時

場 所：学士会分館 8 号室

出席者：

区分		氏名	出欠	区分		氏名	出欠
三役等	会長	山 岸 宏 光		各支部長	北海道	前 田 寛 之	×
	副会長	吉 松 弘 行			東北	宮 城 豊 彦	
	副会長	丸 井 英 明			新潟	丸 井 英 明	
	専務理事	落 合 博 貴			中部	北 沢 秋 司	×
	前会長	佐 々 恭 二	×		関西	山 本 哲 朗	×
表彰委員長	藤 田 壽 雄		九州		玉 田 文 吾	×	
各部部长	総務	広 嶼 孝 也		支部長代行	北海道	米 田 哲 朗	
	編集出版	松 浦 純 生			東北	千 葉 則 行	
	事業計画	檜 垣 大 助			新潟	古 川 昭 夫	
	国際	宮 城 豊 彦			中部	小 野 和 行	
	研究調査	山 崎 孝 成			関西	末 峰 章	
総務	伴 要		九州		宜 保 清 一		
部長代行	編集出版	阿 部 真 郎		財政委員長	小 林 佳 嗣		
	事業計画	中 里 裕 臣		広報委員長	太 田 英 将		
	国際			出席者数		15	
	研究調査	榎 田 充 哉		欠席者数		5	

【会議資料】

資料-1……………前回議事録

資料-2……………平成 16 年度幹事会名簿 (案)

資料-3……………平成 16 年度事業計画・予算書

資料-4……………事業計画部幹事会資料

資料-5……………旅費等についての申し合せ事項 (一部改定案を含む)

資料-6……………叙勲候補者調査要領

開会

a. 会長挨拶：あいさつ文 (日英) を HP に掲載している。法人としての基礎はできたと判断している。今後の課題は、支部の整備、会員増加・会勢拡大である。

b. 前回議事録 (資料-1) 確認 問題なく、承認された。

審議

1. 平成 16 年度の各部部长および委員長の任命について (資料-2)

a. 説明

- ◆ 名簿には未確定部分がある。
- ◆ 前回理事会で三役と部長が任命された。
- ◆ 各部長代行の紹介。部長代行は 8 月の理事会で決定される。国際部は未定、事業計画部は未確定 8 月理事会までには候補者を決定すること。
- ◆ “教育委員長” を新設し、会長直属の委員会としたい。委員長候補は岩男雄四郎先生。倫理要綱の策定を含む教育問題の検討、JABEE 対応などを任務とする。
- ◆ 幹事会を合理化し、メンバーから“元会長”を削除、また、“拡大幹事会”を廃止する。

b. 審議

- ◆ [意見]九州支部の部長代行は宜保清一先生に訂正。

c. 決定

- ◆ 了承。

2. 平成 16 年度各部事業計画について (資料-3)

2.1 総務部

a. 説明

- ◆ 全体的な事業計画は総会で承認された。
- ◆ 資料に記述のほか、倫理要綱の検討を行う必要があると考えている。
- ◆ 会勢拡大の具体的活動計画を検討する。学会誌に会員意向アンケートを載せる、退会者対策、など、内を知ることから始める必要があると考えている。

b. 審議

- ◆ [意見]会長：英語版を充実してほしい。しばしば更新を行うなど...
- ◆ [回答]HP 委員会は HP の維持管理作業を行うことが任務。記事は会員が書くもので活発に寄稿してほしい。
- ◆ [意見]会長：企業も生き残りのために再教育に取り組んでいる。学会としても積極的な取り組みをしたい。
- ◆ [意見]他学会も衰退傾向にある。情報交換の場に行政が出席しなくなったこと も問題
発表会等の盛り上がり低下 一般会員の参加も減少。
：個人倫理と団体倫理を混同していることが問題。団体は国民の福祉に貢献することが前提であり、そのために協働することは重要な責務と考えるべき。

c. 決定

- ◆ 了承。

2.2 事業計画部 (資料-4)

a. 説明

- ◆ シンポジウムは新潟支部と共催で 5 月 21 日、新潟市で開催した。参加者は、192 名 (意見交換会 88 名)であった。
- ◆ 特別講演も盛会であった。
- ◆ 今後の計画を資料-3 で説明。
- ◆ 若手研究者ワークショップを計画しているが、詳細は未定。

b. 審議

- ◆ 研究発表会のポスターセッション (以下、PS と表記) について
- ◆ [意見]“ポスター賞”の設定を検討したらどうか? PS の人気アップが望ましい。
- ◆ [意見]PS は特定少数の発表者に偏り勝ち 一般化のためにも工夫が必要。いずれにしても PS の活発化は参加者増につながる。
- ◆ [意見]掘り下げた議論ができることが PS の特長。PS の増加は学会の隆盛にもつながる。
- ◆ [質問]学会として PS を実施するねらいはどこにあるのか?
- ◆ [回答]当初は口頭発表者の増加に対処するためであった。しかし、現在は PS の特性を活用した発表内容になっている。
- ◆ [意見]それならば、会場をよりよいものにするとよい。議論を通じての大きい教育効果を引き出すべき。
- ◆ [意見]PS の一人あたり発表数は現在は無制限である。口頭発表と重複発表する人もいる。この問題は再考する必要がある。

c. 決定

- ◆ 問題なく了承。PSの実施方法についてはメール会議で検討していく。

2.3 研究調査部

a. 説明

- ◆ 助成対象研究委員会を新規 2 件公募したところ、4 件の応募があった。8 月理事会に諮りたい。
- ◆ 受託業務は 2 件を予定している（本部対応=1 件、東北支部対応=1 件）。平成 17 年度は地下水観測手法の研究だけが残る。新規 1 件を確保したい。

b. 審議

- ◆ [質問] 学会として、他の研究公募に応募できないか？
- ◆ [事務局回答] 学会に届いた情報は HP に載せている。
- ◆ 文部科学省研究普及課題：H16 は 2 件。今後増加する見込み。
- ◆ [報告] 長野県から地すべり技術基準策定業務を受託できそうである。支部で方針検討中。予算は少ないらしい。
- ◆ [意見] 官庁からの受託物件で学会が果たすべきは、一般化、先導、しめくくりの役である。一般化したものは出版が可能。
- ◆ [報告] タイ国との共同研究は 12 月に小縮尺の地すべり危険度マップ作りを議論する。

c. 決定

- ◆ 了承。

2.4 編集出版部

a. 説明

- ◆ 学会誌編集委員会は年 12 回開催。学会誌は第 41 巻を 6 回発刊する。
- ◆ 第 41 巻から“フォーラム”欄を新設した。
- ◆ 一般投稿数は伸び悩み気味だが、特集号に圧迫され掲載待ちが増えている。
- ◆ 特集テーマを 2 件とする計画。テーマのあり方として、編集出版部の戦略的（意思表示）テーマ、一般投稿の分野拡大ねらい、特定テーマ集中（発表会、シンポジウム、災害、委員会等に関連）に対する調整、がある。
- ◆ テーマ“情報科学と地すべり”は次年度に計画する。
- ◆ 今後、一般・基礎投稿の増加策を考える必要がある。
- ◆ 地形地質用語集の発行は遅れて 7 月 10 日頃になる見込み。

b. 審議

- ◆ [質問] 一般投稿の掲載待ち期間は？
- ◆ [回答] 6 ヶ月程度。一般投稿は現在、] 年 30 本程度ある。特集も同じ。今後は一般 40 本、特集 30 本程度にもっていきたい。
- ◆ [意見] 一般と特集で、投稿の内容・程度に差があるか？
- ◆ [回答] 基本的に同等である。編集部の戦略的テーマに関しては、査読をやや甘めにしていく。
- ◆ [報告] “研究ノート”は速報性が必要なので早く掲載するように配慮している。
- ◆ [報告] 場合によっては特集号の発刊を遅らせて、一般・基礎投稿を優先することも考える。
- ◆ [報告] 特集号は 1 年半前から準備を始めている。特集号の発刊を年 3 回から 2 回に減らした場合、突発的災害への対応などが苦しくなる。
- ◆ [意見] 会長：編集出版部の負担が大きいと思う。会誌に重点をおいて、他のものを別組織に委ねることも考える必要はないか？
- ◆ [回答] 人材確保が難しい。いずれにしても、組織的には編集出版部のもとで活動する形態が適当と思う。
- ◆ [質問] 用語集の損益分岐点は？

- ◆ [回答] 原価 350 万円。印刷部数 2000 部。 会員価格販売，無償配布百数十部を考慮して，1000 部以上の販売が必要。今回は専門の出版社を使わなかったため，数十件の引用文献の承認手続きを学会が直接実行した。
- ◆ [意見] 学会が出版するということは責任が伴う。発刊時点でのレベルをどうするのか今後検討が必要である。

c. 決定

- ◆ 問題なく了承。

2.5 国際部

a. 説明

- ◆ 新しいジャーナル “ Landslides ” の抄訳を作成し，学会誌国際ページに掲載している。今年 11 月号以降の掲載内容をこれから決める。
- ◆ 国際斜面災害研究機構（ICL）の第 3 回代表者会議（スロバキア国コメニウス大学）に代表者派遣予算が承認されたので，山岸会長と宮城国際部長を派遣する計画である。

b. 審議

- ◆ [意見] 当学会が国際地すべり学会を誘致する時期ではないか？
- ◆ [意見] ICFL，ICL，ISL の関係をどのように調整していくかを検討する必要がある。
- ◆ [意見] 来年は学会創立 40 周年にあたる。何かイベントを考えないか？

c. 決定

- ◆ 問題なく了承。

2.6 表彰委員会

a. 説明

- ◆ すでに 2 回の会合を持った。
- ◆ 論文賞は該当なし（応募 1 件）
- ◆ 次の 2 点を検討している。
谷口賞は地すべり功労者を対象としているが，出版物も審査対象にする。
研究奨励賞は若手を対象とすることを明確化し，重点的に取り扱う。
- ◆ 学会誌の評判が非常によい。質量ともに明らかに向上しており，外部の評価も高い。これを表彰したい。表彰規定付則を適用できるケースである。会員によく見える形で表彰すべきであるし，それによって会勢拡大にもつながると考える。

b. 審議

- ◆ [質問・意見] 三賞の受賞予定者にはいつ頃知らされるか？ 選考と承認を早めてリードタイムを長めにとってほしい。
- ◆ [回答] 理事会承認で確定する必要がある，正式には寸前で確定ということもある。会長への報告はほぼ 1 ヶ月前に行い，その後，表彰委員会から内々に通知している。

c. 決定

- ◆ 編集出版部の表彰は吉松副会長を推薦人として表彰委員会で検討し，8 月理事会に諮る。
- ◆ その他の件も承認。

3. 平成 16 年度支部の事業計画について

a. 説明

- ◆ 各支部の計画説明。

b. 審議

- ◆ [要望] 会計処理についての指導，フォローを希望する。

- ◆ [要望] H17 長崎の研究発表会の情報を支部に流してほしい。
- ◆ [回答] 運営方法の改革について事業計画部で検討している。

c. 決定

- ◆ 了承。

4. 倫理要綱の策定を含む教育問題の集中討議について（資料-4）

a. 説明

- ◆ 文部科学省から暗に倫理要綱の策定を求められている。
- ◆ JABEE が本格的に動き出している。
- ◆ この件は 8 月理事会で詳しく報告する予定。

b. 審議

- ◆ [要望・意見等] 特になし。

c. 決定

- ◆ 了承。

5. 幹事会交通費支給に伴う規定の整備について

a. 説明

- ◆ 他の行事と重なった場合は、その行事を優先する。交通費実費の支給はなしとする。

b. 審議

- ◆ [要望・意見等] 特になし。

c. 決定

- ◆ 了承。

報告

1. 平成 17 年度叙勲候補者の推薦について

a. 説明

- ◆ “ 候補なし ” として報告する方針である。（本来所属の機関から推薦されることが多いため）
- ◆ 学会の会員選挙基準が変更され、当学会が直接推薦に関与する必要がなくなったと考える。

b. 審議

- ◆ [要望・意見等] 特になし。

c. 決定

- ◆ 了承。

以上

（記録：伴， 文責： ）